

6月に募集があります

## 福祉住宅つつじ苑

6月は、65歳以上の高齢者向け「福祉住宅つつじ苑」の募集があります。現在、区内の賃貸アパートなどに5年以上住んでいて、家賃が高いなど、お困りの方に対して、豊島区が募集し供給する公営住宅です。

障がい者と、ひとり親世帯については空き家が発生した時に募集しますが、今回募集する高齢者向けについては1年に1回、6月に抽選で登録順位を決定し、空き家の発生に伴い入居することになります。

都営住宅・区営住宅よりも、応募して入居される方が多いと感じます。詳しく知りたいという方はお問い合わせください。

募集期間：6月2日（木）～9日（木）

（同時に「家族向け区営住宅」の募集があります）

### ＜申し込み資格＞

- 区内に5年以上住んでいること。
- 住宅に困窮している方。
- 家族の所得合計が月額214,000円以下の方。
- 2人家族以上の世帯用についても同居者が65歳以上であること。
- 申込み者が暴力団員でないこと。等です。

20年前から行われていた！



自民党区議2名辞職の

パーティー問題

5月7日付の毎日新聞が、自民党区議による政治資金規正法違反の事件について、「元区幹部（区の元部長・元課長）が『20年前から行われていた』と話した」と報道しました。

先月、森ニュースで本事件を取り上げましたが、昨年6月に開いた、堀こうどう自民党元都議の政治資金パーティーに、自民党区議幹事長の松下そういちろう氏と副幹事長の竹下ひろみ氏が、豊島区の職員に参加を求めた政治資金規制法違反の罪で、今年3月に議員辞職しました。政治資金規正法は、公務員に対し政治資金パーティーの会費を支払わせ、参加を求めることを禁じています。

これまでにテレビや新聞で、区の職員や議員辞職した本人から「10年前からやっている」といった報道や、自民党豊島総支部は毎年3月、政治資金パーティー「春のつどい」を開き、同様の行為をしていたという報道もあります。

事件は、区議会で継続して真相究明するために取り上げられていますが、いまだに自民党からはまともな説明がありません。これまでの経過から、自民党が組織的に慣例化していた実態が明らかです。辞職した本人でなければ知らぬ存ぜぬでは通らない大問題になっています。

## 沖縄の本土復帰50年

日本の願い、県民の願い

米軍基地のない

平和で豊かな島の実現を

沖縄県は5月15日、本土復帰50年を迎えました。

私は大学生生活4年間を沖縄で過ごしました。当時は復帰から10年ほど経過していましたが、学校に左ハンドルの日本車があるなど、アメリカに統治されていた名残りがありました。また普天間基地が近くにあり戦闘機の爆音で講義が中断することも度々ありました。50年前に、政府と共有した「沖縄を平和の島とする」という目標は半世紀経っても達成されていません。

いまだに国土面積0.6%の島に、日本の米軍基地面積7割が集中しています。戦前、沖縄は全国で唯一、軍隊が常駐していない県でした。そこに太平洋戦争末期に日本軍が防波堤だとして基地を編成したことで、戦禍で県民の4人に1

人が命を奪われました。

米軍占領下の27年間、沖縄は無権利状態に苦しめられてきましたが、復帰後50年経った今も、辺野古新基地建設や、日米地位協定などに県民は過重な基地負担を強いられ続け、米軍基地面積が占める沖縄の割合は復帰時の58.7%から70.3%にも増加しました。

今、基地のない平和で豊かな沖縄をめざす県民のたたかいは、革新の垣根をこえた「オール沖縄」がつくられ、デニー県政に引き継がれています。

デニー知事が復帰50年にあたって公表した新たな「建議書」で改めて「基地のない島」を政府に強く求めました。これからは沖縄と連帯し、政治を変えることで、一刻も早い平和の実現をめざします。